

第4回指宿枕崎線(指宿・枕崎間)の将来のあり方に関する検討会議

議事概要

日時：令和7年8月5日（火）14:30-16:00

場所 鹿児島県ホテル自治会館 402号会議室

指宿枕崎線指宿駅から枕崎駅までの区間における将来のあり方を検討する「指宿枕崎線（指宿・枕崎間）の将来のあり方に関する検討会議」について、第4回検討会議を開催したところであり、その議事概要は以下のとおり。

1. 開会

2. 冒頭挨拶 【鹿児島県総合政策部交通政策課長】

3. 報告

- 指宿枕崎線（指宿・枕崎間）の将来のあり方に関する検討会議
規約の改正について
- 地域との関わり（座談会）について
- 指宿枕崎線（指宿・枕崎間）検討調査事業者の決定について
・事務局から上記3項目の説明を行い、構成員により確認。

4. 議事

- 第1号 指宿枕崎線（指宿・枕崎間）検討調査事業等について
(鹿児島県)

- ・第3回検討会議にて、指宿枕崎線の社会的・経済的価値の可視化にあたり、公募型プロポーザルの実施要領、実施方法等について議論し、5月から6月にかけて公募型プロポーザルを実施した。公募の結果、EY ストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社（以下 EYSC）に決定したところ。
- ・本日 EYSC にも同席いただいております。調査内容について概要を説明いただきたい。

(EYSC)

- ・今回、指宿枕崎線が地域にもたらしている、そして将来もたらすであろう社会・経済的価値の可視化・定量化していくことが、今年度の検討調査業務において非常に重要なポイントになっていると認識している。

- ・現在の指宿枕崎線が有する価値については、事業収入などで図ることが可能な価値に加えて、これまで十分に可視化されてこなかった価値が存在していると考えている。これらを可視化・定量化しつつ、今後実施していく様々な地域活性化施策によって、これらの価値が増加・創出されていくことも見込まれるので、短期、中長期という形で区分しながら試算していくことを想定している。
- ・可視化・定量化においては、一般的な経済効果のような漠然としたものでなく、具体的にどのような分野や受益者に対して裨益があるのか、区分して可視化していくことが重要だと考えている。現在、価値の分野や性質の洗い出しに着手しており、どのような受益者にどのような価値が帰属するかを明確化し、試算していくことを想定している。最終的にはこれらの価値の試算と、様々な施策・事業にかかるコストを比較検討していくことで、体系的に整理したいと考えている。
- ・社会・経済的価値の可視化にあたっては、定量的価値と定性的価値に分かれていると考えており、その測定にはさらに3種類手法があると考えている。
- ・一番イメージしやすいのは、金銭的価値であり、指宿枕崎線が存在するからこそ生み出される価値の生成過程を整理しながら、様々なデータを取り、概算で推計していくことを想定している。
- ・金銭価値に直接換算することは難しいが、地域の課題に対して一定の効果が生み出されていると考えられる場合には、金銭価値化と同じく、その価値の種類や価値を生み出す過程を整理し、どのような指標がどの程度変化するかという観点で指標を定量的に測定することを想定している。
- ・定性的価値は、「地域に鉄道があると良い」といった漠然とした形で語られていたものを、具体的にアンケートなどを実施し、言語化していくことを想定している。
- ・これらを総合評価するような形で、全体として「指宿枕崎線が生み出す価値」を可視化・定量化していくことを想定している。
- ・続いて、価値の可視化をしていくことと並行して、皆様から出てきた地域活性化施策、地域づくりのための様々な取組を進めていくにあたっての整理をしていく。現時点においても既に様々なアイデアが挙げられている状況であるが、闇雲に実施していくと、どの施策が地域にとっ

ていいものか、峻別しづらいものになってしまう。地域の目指すべき姿への実現に向けて効果的なのか、施策をどのような順番で実施していくことが適切なのか、といった観点から施策の内容、目的等に応じて分類していくことが、まずは重要と考えている。

- ・具体的には、今年度実証事業として取り組んでいく「Tier 1」、比較的短期で実施していく「Tier 2」、比較的中長期で実施する「Tier 3」と分類していくことを想定している。
- ・「Tier 1」については、事業のねらいという要素も踏まえながら設定していくを考えている。
- ・検討にあたっては様々な要素があると思われるが、大きくは時間と人材と効果、という軸で検討していくことが良いのではないかと考えている。
- ・その他、詳細については資料に検討要素を記載している。やはり、「どのような効果が見込まれているのか」という点が重要だと考えており、先ほど説明した可視化定量化される効果や、 $+\alpha$ として地域の方々の当事者意識の喚起や人材育成、地域外からいかに人材やスキルを引っ張ってくるのか、こういった要素も非常に重要と考えている。また、地域づくりに繋げていくということで、施策に対して地域の皆様の関心が高く、連携を意識した広域的な取組として実施していくことも、ポイントになると考えている。
- ・このような観点から今後の取組方針について議論させていただければと思う。

（鹿児島県）

- ・これまで我々が実施してきたワークショップ・座談会等で出た意見を踏まえて、今後の方針について、議論ができればと思う。

（神田教授）

- ・諸々の効果を数字で可視化するにあたって、数字に拘るべき部分と、どの効果で見るかという指標に拘るべき部分は切り分けた方が良い。
- ・数字はあくまでも計算した結果なので、想定どおりにならないこともある。当面は可能性を探る段階であり、数字だけで可否の判断はしない方が良い面もあるだろう。

（鹿児島県）

- ・数字は一定の仮定のもとで計算し、幅を持った上で議論ができればと思

う。定量的な数値として示し、指宿枕崎線の価値を追求していくことになるかと考える。

(九州旅客鉄道株式会社)

- ・現状のままでは指宿・枕崎間の運営状況が厳しいことには変わらない。そのような中、同線区の社会・経済的価値を可視化するのは非常に面白い試みかと思う。価値を可視化する上で、受益の帰属先を明確化することが非常に重要だと考えており、価値そのものの増大化について、まずは一緒に取り組んで参りたい。
- ・実証事業については、次世代を意識した、将来への持続性の高さを意識することが必要と考える。

(指宿市)

- ・これまでの座談会を踏まえ、今回、改めて地域に聞き取りを行った。地域からは、降りる駅に目的が必要、観光拠点への周遊性・利便性の向上、駅の待合所、ビールの車内販売、サイクルトレイン、駅周辺にカフェを設置、沿線に花を植えて景観を整備する等の意見があった。
- ・その他、本数が少なく使い勝手が悪い、西大山駅のトイレ整備、観光大使・インフルエンサー等と呼び、まずは注目を集める。
- ・話を聞いた方々に共通していた意見は「観光拠点を結ぶ・周遊する仕組みができれば良い」ということだった。
- ・どのような視点で実施するかについては、持続可能性という点があり、実証事業としての費用が無くなった際に、取組が続かなくなってしまうのは良くない。
- ・先を見据えると、事業の仕組みの構築が既にできているところから始めるのが良いのではないかと思う。
- ・現在、指宿駅にカーシェアリングを設置しており、同会社によるカーシェアが鹿児島市内、空港などに設置されている。西大山駅等に新たに配置できれば、二次交通としてなり得るのでは無いか。あるいは沿線市で連携協定を結び、カーシェアとして採算性が取りにくい場所に設置できるのではないかと、地域の意見を聞いて考えた。

(南九州市)

- ・当市においては、川辺・知覧地域が指宿枕崎線に対して少々関心が薄く、顚娃の地域が主体となり、顚娃おこそ会が座談会にも参加していただ

き、積極的に関わっていただいている。

- ・事業について、これまで頂いた意見を踏まえると、イベント的なアイデアが出てしまっている印象。ＪＲ九州の「イベントは瞬発的なものになってしまう」というご懸念のとおりで、やはり地域の資源をどう活用していくか、という点に地域活性化の課題というものがあると考えており、そこに鉄道をどのように関わらせるか、目的と手段をそれぞれどのように担ってもらうか、という考え方になる。
- ・具体的には、「自転車を使った地域回遊性の創出」や、水成川駅から歩いていける番所鼻公園が８月にリニューアルし、滞在型の施設となっていることから、人を呼び込む施策等について検討してはどうかと思う。
- ・また、財源の点についてふるさと納税を活用し、地域で共通の返礼品を設定し、特別感のあるプレミアムチケットを造成するなど、地域の外からまず利用者と呼び込み、財源を確保しつつ地域活性化を促し、地域内に循環させるようなイメージができれば良いと考えている。

（枕崎市）

- ・当市からの現地のプレイヤーとしては、座談会にも御出席いただいた中原水産、南薩地域振興局のプロジェクトに参加した一般社団法人枕ラボ！やＪＣ（青年会議所）などのメンバーなどもプレイヤーになり得ると思う。
- ・先日、枕崎市で港まつりを開催した。市の人口の１万９,０００人の数倍である６万５,０００人の来訪があった。何故、その場所に来るかという理由を考えると「その場所に行きたくなる魅力がある」ことがあると思う。毎週、港まつりのようなイベントを開催することはできないが、地域の隠れた魅力を把握し、磨き上げることが、多くの方に訪問したいと思ってもらえる地域に繋がると考えている。
- ・旅の思い出ノートを読み解くと、枕崎駅が最果ての駅として、人生の節目として新たなスタートを切る地域として選ばれていることがわかった。
- ・課題としては、鉄道を活かすことではなく駅舎を活かす観点になりがちになることがある。鉄道があるからこそ駅が存在するという意識が少し薄いように感じるので、意識の改善醸成に関する取組も必要かと思う。

（南薩地域振興局）

- ・指宿枕崎線の沿線地域活性化は観光の視点などに偏っているような印象であり、沿線の地域作りという視点ではあまり進んでいないように感じる。
- ・南薩局としてのプロジェクト取組を、今年度はタブロイド紙で発信する予定。
- ・現在、来年度の振興事業の活用を検討している時期。来年度に向けて取り組めるものがあれば、南薩局としても沿線市と一緒に事業を実施したい。当局としても何かできないかと思っているが、交通政策課の取組と棲み分けが必要。

（九州旅客鉄道株式会社）

- ・御意見をいただき感謝。地域が問題意識を持っていただいており、これからどのような効果があるか、できることから一緒に取り組んでいければと思う。
- ・一緒に実証事業に取り組んでいく上で、鉄道に関連するものは安全性の観点から制約があるので、その点については御了承いただきたい。また、各地域がそれぞれで実施可能なものもあると思われるので、併せて独自に実施することもあり得ると思った。

（鹿児島県）

- ・頂いた意見をまとめると、実証事業を決定する上では「持続可能性」が必要。財政的な点、誰が今後担っていくか、継続性の観点について留意しながら検討していくことが必要。
- ・また、「回遊性を高める」ことも一つの課題。これまでの座談会での意見でもあったが、魅力的なスポットは多々あるものの、それらを結ぶ機能が弱い。回遊性を高め、来訪者や地域の方が動きやすくなる取組が必要。
- ・「駅の活用」についても、カテゴリーの一つとして検討できるのではないかと意見を聞いて思った。西大山駅など、鉄道があるからこそ存在する駅をどう活用できるのか、駅そのものに拘らないよう、検討ができればと思う。

（神田教授）

- ・実証事業を実施するにあたっては、何を検証するかという仮説と効果の観点や、鉄道というアセットとはそもそも何か、鉄道が走ることで、鉄道

があることによって存在する駅の価値など、総合的に測る必要がある。

- ・また、実証事業は地域との関わり方を考えるきっかけとなる。実証事業の実施に伴い、地域へ声かけをして一緒に取り組んでいく。その時に3市においては、それぞれ地域との関わり方が変わるとしており、関心がある人を積極的に巻き込んで行けると、指宿枕崎線の議論が地域へ浸透していくと思う。場合によっては、今の制度や法律では厳しい現状が出てくるとしており、国に対して声をあげる機会があると考えている。
- ・いずれにせよ、何を指そうとしているのか、目指すにあたっての何が障壁になっているのか、実証事業を行いながら行政目線・鉄道事業者目線で意識する必要がある、持続可能性については、どのようにマネジメントするかという観点に帰着するので、先を見据えながら実施していくことになるかと思う。
- ・事業効果が高いと見込まれないとしても、「人を巻き込む」ことを目的とした実証事業があっても良いかと思う。

（鹿児島県）

- ・本日、実証事業についての御意見を頂いた。すぐに実施可能なものは調整を早速開始し、調整が必要なものは丁寧に進めていきたい。効果検証など検討を要するものは、内容の検証を継続し、実現に繋げていきたい。皆様の御協力が必要であるが、実現に向けて一致団結して取り組んでまいりたい。

以上